

# いつも膳所高校のそばに久保奎文堂



発行  
膳所高校  
新聞班

膳所高校の近くで営業する久保奎文堂。新学期の教科書販売、本や参考書の購入など、膳所高校なら誰しもが関係しているだろう。今回はその久保奎文堂について紹介する。

## 120年の歴史

久保奎文堂は一九〇四年(明治三十七年)三月、膳所高校がまだ膳所中學校であったときに地域密着型の書店として誕生し、今年で創業一二〇周年となる。「奎文堂」の「奎」の字には、四つ足のごとく定着するという意味が込められており、当時膳所高校の教師だった岩野泡明氏が名付けたそう。現在の店主である久保泰幸さんは四代目だ。写真は一九二三年頃のもので、店舗の場所は今とほぼ変わっていない。店はいつも時代の変化の影響を受けてきた。第二次世界大戦中には統制令が出され、店をやめなければならなかったが、終戦後にはまた再開した。また、道路に自動車を通るよ



▲1923年(大正13年)の店舗の様子。位置は現在とほとんど変わらない。

# 「地域の皆さん あってこそ」



▲現在の久保奎文堂

うになったことで道幅が広がり、それに伴って店舗の位置も後退した。店舗の建て替えも二・三回行った。店の周囲の環境も時代とともに変わってきた。店の周りにはかつては金具店や呉服店などが営業していたが、店主の高齢化と後継者不足の問題から閉店したようだ。



▶赤本や参考書など、高校生向けの書籍の取り扱いが多い。

## 人気の本は？

客は膳所高校が多いが、地域の人からも愛されている。高校生には受験用の参考書が人気だが、地域の人にはクイズやナンプレなどの雑誌が人気だという。おすすめの本は宮島未奈氏や今村省吾氏の本だそう。本校に講演に来られる前には宮島氏が来店された。地域の作家を支えたいという、書店としての思いがあり、これらの本は欠かさないようにしているという。また、今年から放送している大河ドラマ「光る君



▶地域にゆかりのある作家の書籍を集めた特設コーナー

へ」にちなみ、紫式部や平安時代にもつわる本の特設コーナーを設けている。一年の中では三月から四月に学用の教科書などの販売で特に忙しい、毎

年本校の卒業生が手伝いに来るそう。卒業後にはお世話になった書店に感謝の気持ちを込めて手伝いをしてはどうだろうか。

## 編集部より

まずは新入生の皆さん、入学おめでとうございます！思えば、私も一年前は入学したばかりだったのかと思うと、この一年はあっという間の一年でした。とにかく高校生活に慣れることで精一杯な一年だったなあと思います。そこで今年、目標を立てて、その達成のために頑張る一年にしたいと思えます。そこで、今年達成したい目標をノートに百個書き出してみました。今からでもできそうな小さな目標から、できたらいいな…程度の大きな目標まで書き出して、すこしずつ挑戦していきます。達成したらノートに達成できた！と印をつけます。自分がしたこと、できたことが目に見えるのでいつもより大きい達成感が得られます。やはり、目標を書き出すというのは大事ですね。今年こそは頑張った、何をしたらと言える一年にしたいと思えます。(担当者…二年生S)

## 宮島未奈

## 成瀬は信じた道をいく

「成瀬は天下を取りに行く」に続く「成瀬シリーズ」の最新作。膳所高校に通う主人公の成瀬あかりが大学受験から大学に進学し、びわ湖大津観光大使になるまでを描く短編小説。



著作権許諾  
申請中

## 店主のおすすめ

# 滋賀にまつわる本 読んでみませんか？

## 今村翔吾 塞王の楯

近江の国・大津城を舞台に石垣職人「穴太衆」と鉄砲職人「国友宗」の対決を描く。絶対に破られない石垣を作ろうとする穴太衆とどんな城も落とす砲を作ろうとする国友衆。職人の対決を描く戦国小説。第一六六回直木賞受賞作。



著作権許諾  
申請中